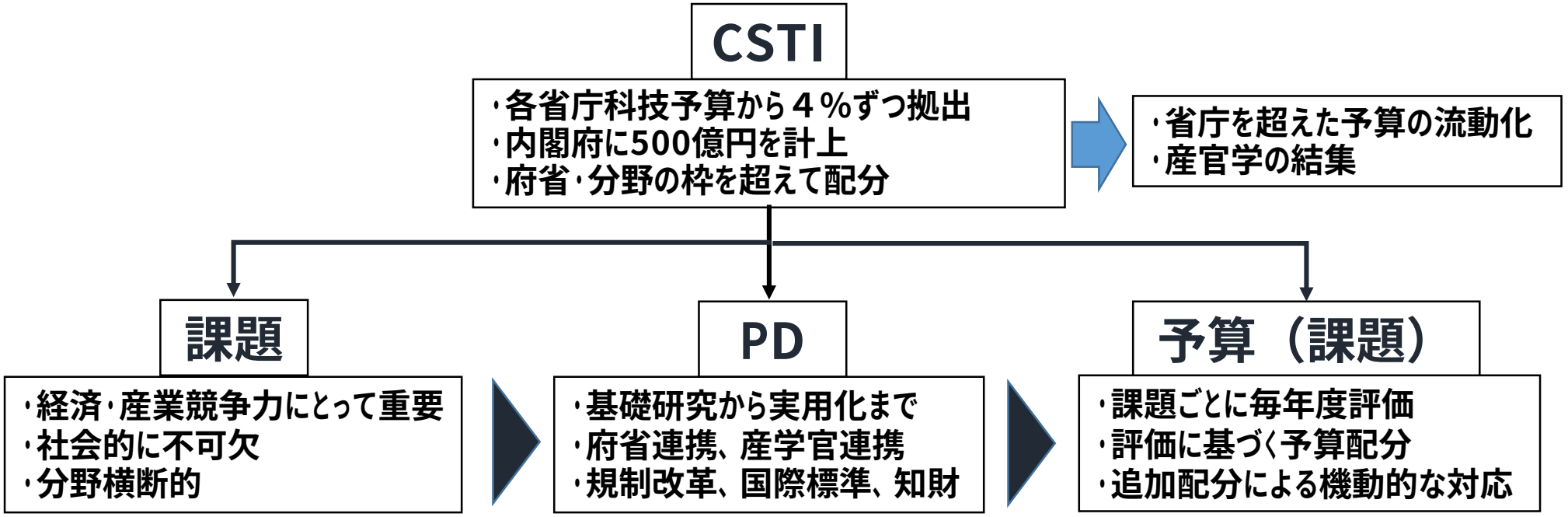
資料３

次期SIPに向けて

令和3年1月14日

内閣府　政策統括官（科学技術・イノベーション担当）

CSTIが司令塔機能を発揮するためのツールとしてSIPを創設



（参考）

○SIP1期11課題（2014年度～2018年度：毎年度325億円（最終年度を除く））

・革新的燃焼技術
・次世代パワーエレクトロニクス
・革新的構造材料
・エネルギーキャリア
・次世代海洋資源調査技術
・自動走行システム
・インフラ維持管理・更新・マネジメント技術
・レジリエントな防災・減災機能の強化
・重要インフラ等におけるサイバーセキュリティの確保
・次世代農林水産業創造技術
・革新的設計生産技術

○SIP2期12課題（2018年度～2023年度：毎年度280億円（初年度を除く））

・ビッグデータ・AIを活用したサイバー空間基盤技術
・フィジカル空間デジタルデータ処理基盤
・IoT社会に対応したサイバー・フィジカル・セキュリティ
・自動運転（システムとサービスの拡張）
・統合型材料開発システムによるマテリアル革命
・光・量子を活用したSociety5.0実現化技術
・スマートバイオ産業・農業基盤技術
・IoE社会のエネルギーシステム
・国家レジリエンス（防災・減災）の強化
・AIホスピタルによる高度診断・治療システム
・スマート物流サービス
・革新的深海資源調査技術

第6期基本計画答申素案における次期SIPの位置づけ
（令和３年1月14日時点版）

社会課題解決

社会課題解決に向け、次期SIPをはじめとする様々な枠組みで研究開発を推進

分野横断

特に分野横断的で社会課題解決に直結するテーマについては、次期SIPの課題として推進

総合知

次期SIPでは「総合知」を有効に活用するための実施体制を全ての課題に組み込む

次期SIPの課題候補については、2021年末の選定に向けた検討を行う

2021年末の次期SIPの課題選定に向けて

検討におけるキーワード

〇第6期基本計画

〇CSTIが策定する各種戦略
（AI技術、バイオテクノロジー、量子技術、環境・エネルギー、マテリアル）

〇デジタル（データ戦略）、グリーン成長戦略、スマートシティ、国土強靭化

〇中長期的に取り組むべき社会課題の見極め

〇府省庁で横断的に取り組むべき技術開発テーマ

〇ショーケースとしての万博

ヒアリング調査結果の一部（SIP1期の成功事例）

SIPにおける成果

自動運転に必要な高精度３次元地図を含むダイナミックマップの統一仕様を業界横断的に策定し、大規模実証において検証

社会実装に向けた枠組み

電機･地図･測量会社と自動車会社が**ダイナミックマップ基盤株式会社を設立**し、自動車専用道路の高精度３次元地図を整備するとともに商用配信を開始（2019年3月）

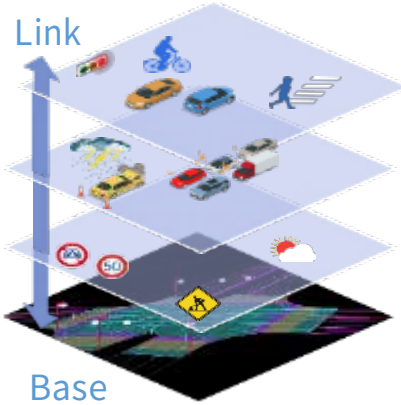
法制度整備

高精度３次元地図の整備等により自動運転レベル３の実現が技術的に可能となったことも踏まえ、道路交通法及び道路運送車両法の改正法が成立（2019年5月）

Hondaが世界初となる自動運転レベル３型式指定を取得し2020年度内に販売予定

Nissanがインテリジェント高速道路ルート走行に採用（2019年度）

ダイナミックマップ



国際展開

北米の自動車専用道の高精度３次元地図を作製･保有しGMに提供しているUshrを買収（2019年度）

成功の理由

- PDのリーダーシップ
- 協調領域の明確化（業界連携）
- 府省庁連携
- 社会実装推進母体の早期設立